

2025 年 8 月 4 日

<FIM 世界耐久選手権>

「Honda HRC」が鈴鹿 8 時間耐久ロードレース 第 46 回大会で優勝 ～Honda HRC は 4 連覇、Honda は通算 31 勝を達成～

「2025 FIM^{※1} 世界耐久選手権“コカ・コーラ”鈴鹿 8 時間耐久ロードレース 第 46 回大会（以下、鈴鹿 8 耐）」が、8 月 3 日（日）に鈴鹿サーキット（三重県）で開催され、Honda のワークスチーム^{※2}「Honda HRC（マシン：CBR1000RR-R FIREBLADE SP ライダー：高橋巧、ヨハン・ザルコ）」が優勝しました。

Honda HRC としては鈴鹿 8 耐で 4 連覇を達成しました。また、ライダーの高橋巧選手は、鈴鹿 8 耐の優勝回数で史上最多記録を更新する通算 7 勝目を 4 連覇で飾り、ヨハン・ザルコ選手は 2 年連続の優勝を果たしました。今回の勝利で、Honda は鈴鹿 8 耐での優勝が通算 31 回となりました。

※1 FIM とは、Fédération Internationale de Motocyclisme（国際モーターサイクリズム連盟）の略称

※2 ワークスチームとは、マシンを製造しているメーカーが運営しているチーム



表彰台の様子



Honda HRC

優勝した Honda HRC は、1 日（金）に行われた計時予選においてトップタイムを記録、予選タイムの上位 10 チームで争われる“トップ 10 トライアル”進出を決めました。2 日（土）15 時 30 分から行われたトップ 10 トライアルでは、高橋選手とザルコ選手が走行し、ザルコ選手が 2 分 4 秒 290 を記録しポールポジションを獲得、鈴鹿 8 耐のコースレコードを更新しました。

決勝レースは 3 日（日）11 時 30 分に火ぶたが切られ、スタートライダーは 4 年連続となる高橋選手がつとめました。スタート直後のホールショットを獲得し、厳しい競り合いの中、2 位での周回を重ね、14 周目にトップを奪還し徐々にリードを拡大しました。その後はザルコ選手との継走で終始安定した走りを見せ、燃費の優位性、素早いピットワークでタイム差を広げレース中盤には 2 位に 1 週の差をつけました。レース終盤、2 度のセーフティーカーの導入でその差が急速に縮まりましたが、相手チームの最後のピットインにより約 40 秒のタイム差を作るとその差を守りきり、217 周を走った Honda HRC は、ザルコ選手が 19 時 30 分にチェッカーを受け、4 年連続の鈴鹿 8 耐勝利を達成しました。

■Honda HRC 高橋巧選手

「無事に終わられてよかったです。急遽 2 人での走行となり、このコンディションの中で相当つらいのはわかっていました。ただただ疲れました。最後、ヨハンのコンディションが厳しそうだったのもあり、その中でしっかり自分ができることをして渡そうと思い、最後のスティントでは 6 秒台に入れて引き離そうとしましたが、後続の追い上げが激しかったことからタイム差をキープして無事に渡す形に切り替えました。最後は本当にヨハンが頑張ってくれました。彼に感謝しています。チームのみんなも頑張ってくれたと思うし、応援してくれたファンの皆さんに感謝しています」

■Honda HRC ヨハン・ザルコ選手

「巧と同じで疲れました。レースコントロールはうまくできましたが、スティント間でのリカバリーが難しく、思ったように回復できませんでした。最終スティントでセーフティーカーが入ったことで、巧は周回数を伸ばし、私の回復時間を稼げました。自分が走った時、2 度目のセーフティーカーが入ったことでリズムを少しずつ取り戻すことができました。夜の走行ではギャップをコントロールしながら素晴らしい景色の中を走り、幸せを感じながらレースをフィニッシュできました。巧はレースでも暑さにも強い選手でつらい表情も見せず、チームの強さに繋がっていると思いますが、来年は 2 人体制では走りたくないですね。Honda は燃費の良いバイクで大きなアドバンテージがあり、7 回のピットストップでフィニッシュできました。チームのみんなに感謝しています」

■Honda HRC 監督 松原輝明

「本当に素晴らしい結果でとても満足しています。まず、過酷なコンディションの中で懸命に走り、素晴らしい仕事してくれた 2 人のライダーに心から感謝したいと思います。そして、ライダーたちを全力で支えてくれたチームのみんなにも感謝しています。まさにチームワークの真髄を見せてくれました。今回もピットストップは最速で、それが大きな差を生みました。これまでの準備が今日、確実に成果として表れました。簡単なレースではありませんでしたが、最終的にはすべてがうまく噛み合いました。本当に楽しく、やりがいのある経験となりました」

■株式会社ホンダ・レーシング（HRC）代表取締役社長 渡辺康治

「Honda HRC 高橋巧選手、ヨハン・ザルコ選手、チームスタッフならびに関係者の皆さん、酷暑の中での 2 ライダーでのレース、そして 4 連覇という重圧にもかかわらず、素晴らしいチームワークを発揮して勝利を引き寄せてくれたことに、心から感謝します。高橋選手は、鈴鹿 8 耐最多記録を更新する 7 勝目の達成という素晴らしい記録を樹立しました。昨年に引き続き参戦したザルコ選手の貢献にも敬意を表します。そして、参戦をサポートして下さったスポンサーの皆様、レースを応援して下さったファンの皆様にも、改めて感謝申し上げます。これからも HRC は、モータースポーツファン、Honda ファンの皆様のご期待に応えるべく、チャレンジをしまいきますので、変わらぬご声援をよろしくお願いします」